

## 課題整理総括表

利用者名 Eさん

作成日

平成 29年 月 日現在

自立した日常生活の 阻害要因 (心身の状態、環境等)		①脳梗塞後遺症左上下肢麻痺		②両下肢筋力低下により歩行が不安定		③義歯が合わず痛みがある	
		④妻は、腰・膝痛がある		⑤自宅は玄関に段差とトイレ等に手すりなし		⑥以前より家事の習慣がない	
状況の事実 ※1		現在 ※2		要因※3	改善/維持の可能性※4		備考(状況・支援内容等)
移動	室内移動	自立	見守り	一部介助	全介助	①②③	改善 維持 悪化 病院内は杖歩行又はつかまるところがあれば車椅子を使用
	屋外移動	自立	見守り	一部介助	全介助	①②	改善 維持 悪化 入院中は行っていない。介助があれば可能
食事	食事内容	支障なし		支障あり		①②	改善 維持 悪化 病院では減塩食、退院後も塩分は1日6g目安
	食事摂取	自立	見守り	一部介助	全介助		改善 維持 悪化 右手ではしを使用。
	調理	自立	見守り	一部介助	全介助	①②⑥	改善 維持 悪化 退院後は妻が行う
排泄	排尿・排便	支障なし		支障あり		①②	改善 維持 悪化 尿意便意はあるがトイレまで間に合わない
	排泄動作	自立	見守り	一部介助	全介助	①②	改善 維持 悪化 ズボンの上げ下げを介助
口腔	口腔衛生	支障なし		支障あり		③	改善 維持 悪化 義歯が合わず歯茎に当たって痛い
	口腔ケア	自立	見守り	一部介助	全介助		改善 維持 悪化 右手で歯磨きしているが完全ではない
服薬		自立	見守り	一部介助	全介助		改善 維持 悪化 自分で服用
入浴		自立	見守り	一部介助	全介助	①②	改善 維持 悪化 身体前面以外は介助している。シャワー浴のみ。 退院後浴室環境を整え湯船につかる予定。
更衣		自立	見守り	一部介助	全介助	①②	改善 維持 悪化 ズボンの着脱・ボタンかけに介助
掃除		自立	見守り	一部介助	全介助	①②⑥	改善 維持 悪化 退院後は妻が行う
洗濯		自立	見守り	一部介助	全介助	①②⑥	改善 維持 悪化 退院後は妻が行う
整理・物品の管理		自立	見守り	一部介助	全介助	①②⑥	改善 維持 悪化 退院後は妻が行う
金銭管理		自立	見守り	一部介助	全介助	⑥	改善 維持 悪化 妻が行っている
買物		自立	見守り	一部介助	全介助	①②⑥	改善 維持 悪化 退院後は妻が行う
コミュニケーション能力		支障なし		支障あり			改善 維持 悪化 大きな声で話せば聞かえる
認知		支障なし		支障あり			改善 維持 悪化
社会との関わり		支障なし		支障あり		①②	改善 維持 悪化 入院により交流が途絶えている。退院後、囲碁の仲間と交流したいと希望している
褥瘡・皮膚の問題		支障なし		支障あり			改善 維持 悪化
行動・心理症状(BPSD)		支障なし		支障あり			改善 維持 悪化
介護力(家族関係含む)		支障なし		支障あり		④	改善 維持 悪化 妻は腰・膝痛あり、夫の介護に不安がある。 長男は遠方
居住環境		支障なし		支障あり		⑤	改善 維持 悪化 玄関の段差、トイレ・浴室は住宅改修にて手すり設置予定
							改善 維持 悪化

見通し ※5	生活全般の解決すべき課題(ニーズ)【案】	※6
トイレに手すりを設置したり、介護ベッドや介助バーの使用し、杖歩行訓練の継続及び便座に座った状態でのズボンの上げ下ろしの練習を行うことで、杖歩行でトイレまで移動でき、ズボンの上げ下ろしも介助せずできるようになる。	トイレまで自分で歩きたい	1
歯科受診により義歯の調整を行う。また、歯磨きの指導やバタカラ体操等を行うことにより、しっかり噛んで食事を食べることができる。	美味しく食事をしたい	4
自宅浴室に手すりを取付、シャワーチェアや浴槽台を購入して環境を整える。入浴前の血圧測定、背中・足先の洗身介助、浴槽の出入り介助・着替え介助を行うことで、自宅の浴室でゆっくり湯船に浸かり介助で入浴できる。	ゆっくりお風呂に入りたい	2
退院後も定期的に医師の診察を受け、服薬(降圧剤)を確実にして、食事は減塩(1日6g目安)に努め、再発の兆しを見逃さないためにも定期的に血圧測定等観察を行うことで、血圧を130mmHg台に保ち、脳梗塞の再発を予防できる。	入院したくない	3
将来的には、以前のように基会所に行き仲間と交流できることを目標にするが、退院直後は、囲碁の仲間自宅に来てもらい、自宅で対局できる。	趣味の囲碁を続けたい	5

※1 本書式は総括表でありアセスメントツールではないため、必ず別に詳細な情報収集・分析を行うこと。なお「状況の事実」の各項目は課題分析標準項目に準拠しているが、必要に応じて追加して差し支えない。  
 ※2 介護支援専門員が収集した客観的事実を記載する。選択肢に○印を記入。  
 ※3 現在の状況が「自立」あるいは「支障なし」以外である場合に、そのような状況をもたしている要因を、様式上部の「要因」欄から選択し、該当する番号(丸数字)を記入する(複数の番号を記入可)。  
 ※4 今回の認定有効期間における状況の改善/維持/悪化の可能性について、介護支援専門員の判断として選択肢に○印を記入する。

※5 「要因」および「改善/維持の可能性」を踏まえ、要因を解決するための援助内容と、それが提供されることによって見込まれる事後の状況(目標)を記載する。  
 ※6 本計画期間における優先順位を数字で記入。ただし、解決が必要だが本計画期間に取り上げることが困難な課題には「-」印を記入。